



史野 根生 先生
大阪行岡医療大学 教授
行岡病院スポーツ整形外科センター長

略歴

昭和23年 大阪生まれ
昭和48年3月 東京大学医学部医学科卒
大阪大学整形外科助手、講師を経て
平成3年 大阪労災病院 スポーツ整形外科初代部長
大阪府立大学 総合リハビリテーション学部 教授を経て
現在 大阪行岡医療大学 教授
行岡病院スポーツ整形外科センター長

前十字靭帯再建術における骨孔死腔充填材料としてのネオプラグ

1. はじめに

靭帯再建術においては、骨孔を作成するが、移植腱を設置した後は、可及的に骨孔空隙を骨などで充填し、死腔を最小化する。充填材料としては、術中に生じた自家骨片などが、望ましいが、不足することがしばしばである。そこで、人工骨が使用されるが、この場合、死腔充填が目的であるので、強度よりも、骨誘導性や置換性の優れたものが適切と考えられる。

2. 膝蓋腱を用いた長方形骨孔前十字靭帯再建術における脛骨側骨孔死腔の問題点

我々の主たる前十字靭帯損傷に対する再建術式の一つは、膝蓋腱を用いた解剖学的長方形骨孔前十字靭帯再建術である(図1)。10mm幅で、長さ15mmの骨片付き膝蓋腱(図2)を用いて再建するが、腱性部の長さは、まちまちであり、この部分が40mm程度であれば、脛骨側骨孔に深さ1cm程度の死腔を生じることは少ない。この死腔を放置すれば、術後出血の増大をきたすばかりか、感染の危険性が増大する。

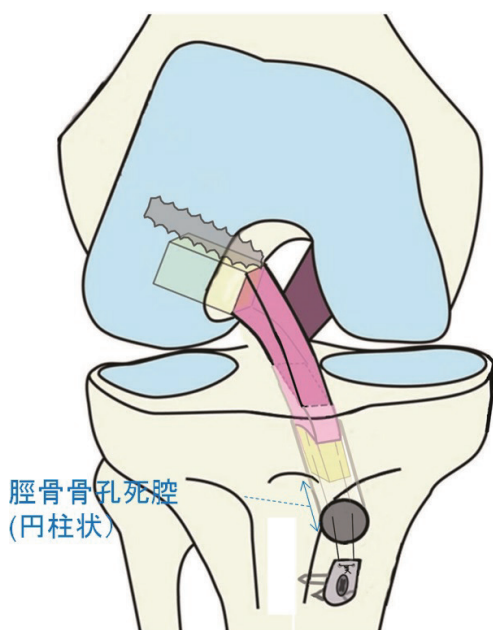


図1

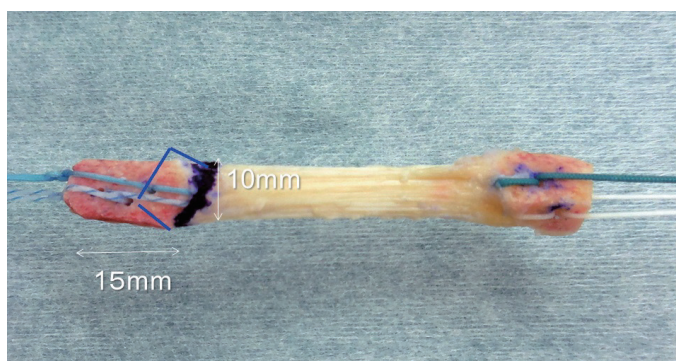


図2

前十字靱帯再建術における骨孔死腔充填材料としてのネオプラグ

3. 骨孔死腔充填材料としてのネオプラグ (図3)

ネオプラグは、10mm径程度の骨孔に充填しやすくするために、筆者がテーパ形状にデザインした円柱状骨孔死腔充填材である。本品は、多孔体構造ハイドロキシアパタイトからなり、強度はさほど高くないものの、骨伝導性に優れている。このため、支持強度が必要でない骨孔死腔充填材料として最適である。ハサミで容易に成形でき、テーパ形状により円柱骨孔への充填もスムーズにできる。これにより、術後出血、感染の危険性を減らすことが可能となる。

筆者は、過去5年間にわたり、本品を必要時に使用してきたが、これに起因する、感染などの合併症などは、全く経験していない。



図 3

ネオプラグ PH02-021 φ11-φ6-L20mm

史野 根生先生 略歴詳細

(学会開催) 第28回日本関節鏡学会 2002年 大阪
 第34回日本臨床バイオメカニクス学会 2008年 大阪
 第1回JOSKAS (日本膝・関節鏡・スポーツ整形外科学会) 2009年 札幌

(学会賞) *John Joyce賞 International Arthroscopy Association (国際関節鏡学会) 1987
 *John Joyce賞 International Arthroscopy Association (国際関節鏡学会) 1989
 *John Joyce賞 ISAKOS (国際関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会) 2001
 *Albert Trillat賞 ISAKOS (国際関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会) 2001
 *Albert Trillat賞 ISAKOS (国際関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会) 2007
 *President賞 APOSSM (アジア太平洋スポーツ整形外科学会) 2010
 *Masaki Watanabe賞 JOSKAS (日本膝・関節鏡・スポーツ整形外科学会) 2011
 *Takagi & Watanabe賞 APKASS (アジアパシフィック膝・関節鏡・スポーツ整形外科学会) 2014
 *Porto賞 ESSKA (欧州関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会) 2014

(名誉会員) Arthroscopy Association of North America (北米関節鏡学会)
 ISAKOS (国際関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会)

(著書) スポーツ膝の臨床 (単著、金原出版、2008、2014)
 新版 スポーツ整形外科学 (共編著、南江堂、2011)

販売業者: 株式会社 **Aimedic MMT**

〒108-0075

東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス

TEL: 03-5715-5211 / FAX: 03-5715-5265

URL: <http://www.aimedicmmt.co.jp/>

製品WEBページ